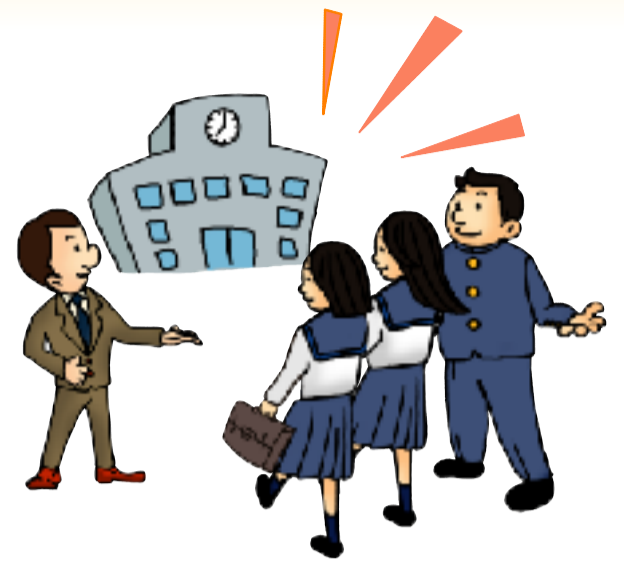


# 県立高校の再編整備などに関する御意見を紹介します

昨年3月に出された「県立高等学校教育整備推進協議会」(略称:整備協)の報告を受けて、同年7月に「県立高等学校再編整備等基本計画」(略称:基本計画)の素案を公表し、県内10箇所各2回の地域説明会や、御要望を受けての個別説明会を実施しました。これまで説明会などでいただいた主な御意見と、それに対する県教育委員会の素案における考え方を御説明いたします。

なお、基本計画の素案の内容、地域説明会での御意見は、県教育委員会のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。



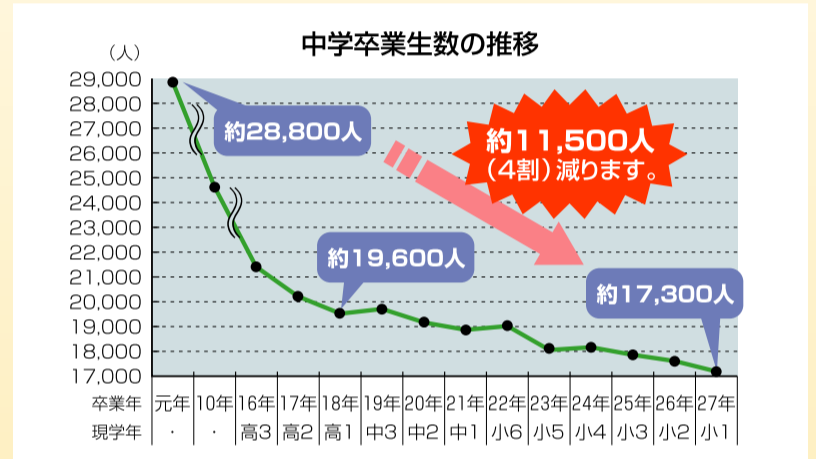
## ●再編の背景や素案における考え方について

### 【意見】

- 少子化の状況を見ると、ある程度の再編はやむを得ないと思うが、地域の文化や伝統にも配慮してほしい。
- 小規模校には小規模校の良さがある。少人数の学校でも是非残してほしい。

### 【素案における考え方】

●本県では、右図にお示したように、長期的かつ大幅に少子化が進んでいます。その結果、1学年3学級以下の県立高校の数は、平成元年7校、平成18年18校と、学校の小規模化が進行し、教育の質に関わるような様々な問題が生じています。このような状況の中、高校段階で求められる教育環境をしっかりと確保していくために県立高校の再編整備は避けられないと考えています。再編整備を進めるに当たっては、地域の文化や伝統などにも配慮する必要がありますが、子どもたちへの教育環境の整備という視点を何よりも重視しています。



- 小規模校にも良さはありますが、次のようなことから、高校は一定規模以上であることが望めます。
  - ①生徒数に応じて先生が配置されるので、生徒数が少ないと教師の数が限られ、次のような支障が出ます。
    - (ア) 選択できる科目が限られ、生徒の様々な進路希望に対応できなくなります。
    - (イ) 先生がいろいろな仕事を一人でこなさなければならず、学校運営がスムーズに進まなくなります。
  - ②生徒数が少ないと部活動数が限られ、魅力的で活力ある活動が困難になります。1学年3学級以下の18校において、40部が今年度新人戦の団体戦に出場できない状況にあり、また、休部となる部活動も年々増えています。
  - ③大人になる直前の時期に、現代社会を自ら生きていく能力を身につけることが大切です。高校では、様々な考えを持った生徒や先生との出会いによって刺激を受け、いろいろな体験を積み重ねながら、社会性や他者とのコミュニケーション能力を身につけ、自我をつくり上げていくことが求められます。

\*このようなことから、整備協では、県立高校長アンケート結果などをもとに高校の適正規模下限の目安が1学年4学級程度と考えられました。  
\*再編整備に当たっては、地理的条件・交通条件などにも配慮します。1学年4学級を下回る高校を機械的に再編統合しようとするものではありません。



【県立普通高校における、学校規模別の教員数、開設科目数等の平均値】

1学年学級数	教員数	開設科目数	部活動数		図書館蔵書数
			運動系	文化系	
2	19.2人	35.0科目	7.7部	6.3部	18,212冊
4	38.0人	47.0科目	11.5部	11.5部	36,866冊
6	52.0人	55.0科目	16.0部	19.0部	52,573冊
8	59.4人	49.0科目	18.0部	21.4部	44,359冊
10	71.7人	50.7科目	22.0部	28.0部	55,020冊

## ●再編検討の視点について

### 【意見】

- 素案で出てくる「子どもたちへの教育効果」の具体的意味を教えてください。
- 財政再建のための計画ではないか。素案の内容では町がさびれるので反対する。

### 【素案における考え方】

- 多様な進路に対応した学力を身に付けるといった意味のほか、社会性を身に付ける、価値観の異なる人たちの間でルールを作りあげていくことができるようなコミュニケーション能力をはぐくむ、適度な切磋琢磨の中で可能性を伸ばしていくといった、高校段階で求められる教育環境を確保するという意味で「子どもたちへの教育効果」という言葉を使っています。
- 行財政の面や高校が地域振興に果たす役割も十分に考える必要がありますが、子どもたちへの教育環境の整備という視点を何よりも重視しています。

